

令和6年度
仙台市



令和の町内会講座

テキスト



テキスト作成

株式会社KITABA

目次

1. いま地域コミュニティでは

- いま地域コミュニティでは.....1

2. 加入率低下と担い手不足の要因

- なぜ、加入率低下や担い手不足となっているか？2

3. まずはこれから取り組みましょう

- すぐに取り組みたい3つのアクション.....4
- ニーズに応じた活動で「必要性」を感じてもらおう.....5
- 「オープンな運営」で参加しやすい組織.....8
- 「デジタル化」で効率化と届く情報発信.....11

1. いま地域コミュニティでは

いま地域コミュニティでは

ごみ集積所の管理や清掃などの環境美化、防災活動など町内会・自治会（以下「町内会」という。）は、地域コミュニティの中心的組織として地域住民の暮らしを支えてきました。

しかし近年は、高齢化や担い手不足、未加入者の増加などにより、町内会組織力の低下が見られます。

加えて、地域コミュニティでは、ライフスタイルの変化により地域コミュニティに対するニーズが大きく変化してきています。

例えば、小さなお子さんを抱えている子育て世代は、地域コミュニティの中で相談できる関係や、少しの時間だけ子どもを預かってくれるような人のつながりを求めています。

若い世代は、孤独を感じる割合が増加しており、地域コミュニティに気軽に立ち寄れるコミュニティの場を求め声が多くなっています。

地域コミュニティの中心的な存在である町内会にこうしたニーズに対応することが求められています。

■地域コミュニティへのニーズ

高齢者支援

- 高齢者の見守り
- 健康寿命
- 活躍の場づくり

安心安全

- 防犯街路灯

防災体制

- 地球温暖化に伴う災害の増加
- 避難所運営

暮らし・環境

- ごみ集積所の管理
- 清掃美化

子育て支援

- 子育てサロン
- 子ども食堂
- 子どもの見守り
- 子どもの一時預かり



コミュニティの場

- 孤独などへの対応

空き家対策

- 治安維持

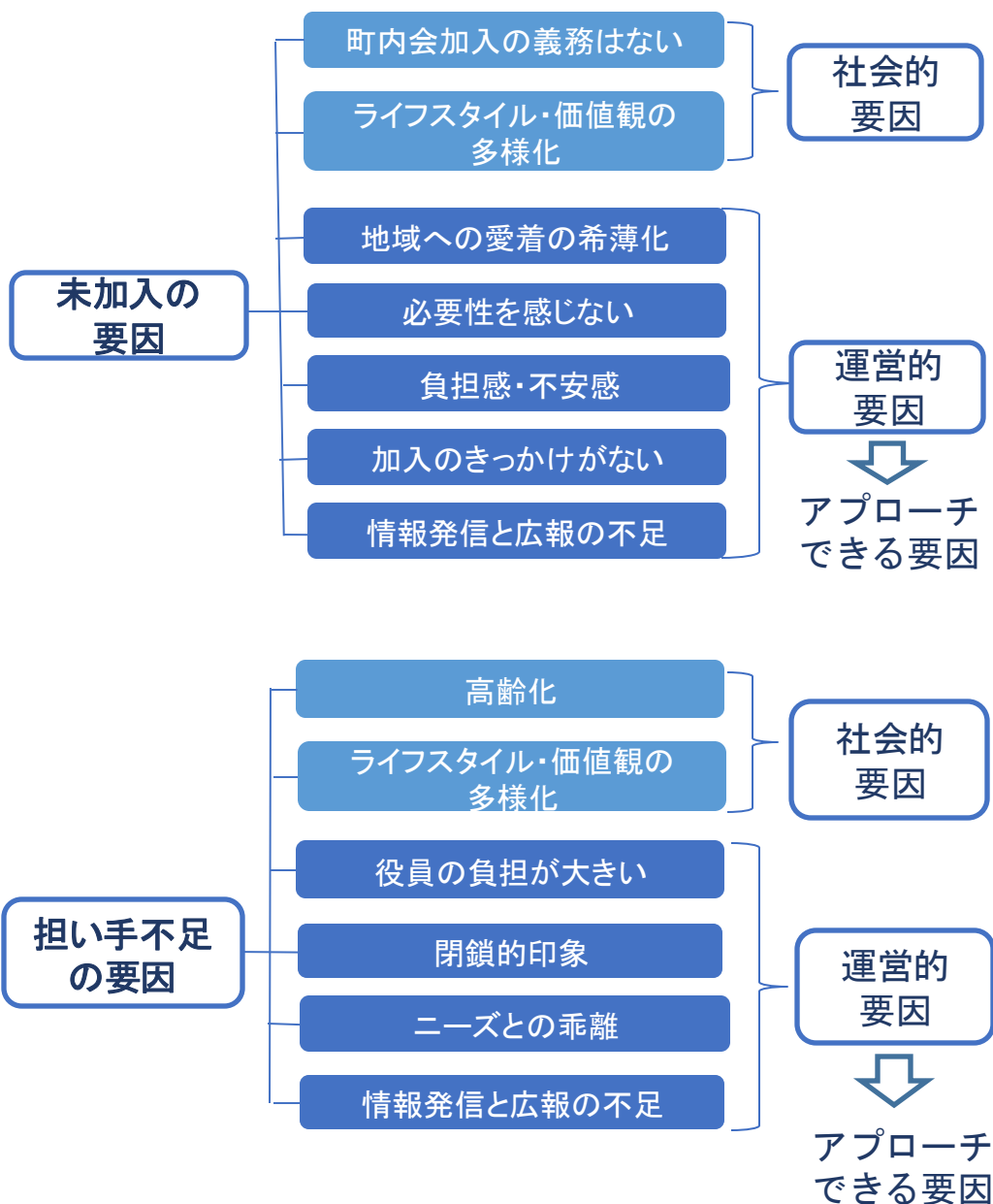
2. 加入率低下と担い手不足の要因

なぜ、加入率低下や担い手不足となっているか？

地域コミュニティの中心的存在である町内会組織では、加入率低下と担い手不足が全国的な課題となっています。

加入率低下も担い手不足もその要因は、高齢化やライフスタイルの変化など「社会的要因」と町内会組織の「運営的要因」があります。

2つの課題に対応するには、「社会的要因」を理解しつつ、「運営的要因」の改善を進めることが求められます。



世代間のつながりが希薄になっている

加入率低下や担い手不足の背景にあるのは、高齢化社会のなかで町内会・自治会活動が高齢者向け活動を中心になってしまったため、役員世代と住民、特に現役世代や子育て世代、若い世代とつながりが希薄になってしまったことがあります。

加入率低下や担い手不足など町内会・自治会の活性化に向けては、こうした背景を考えながら進めることが大切です。

60代・70代・80代が中心

役員の担い手
不足が課題

町内会
自治会役員



- ・ 町内会全盛期(昭和)をイメージ
- ・ 高齢者向けの活動が中心
- ・ 若い世代は町内会に関心がないと思っている



つながりが少ない

地域コミュニティの住民



現役世代(～65歳)
コミュニティには関心



子育て世代
子育て支援へのニーズ



若い世代
孤独感
コミュニティへの
高いニーズ

世代間による意識の違い

昭和の活動を継承

運動会
忘年会・新年会
バス旅行
高齢者クラブ、健康イベント
マスメディアで情報
回覧板・電話



町内会の役員世代
60代・70代・80代

楽しいことをしたい令和

ハロウィン、クリスマス会
キッチンカーイベント
子育てサロン・地域食堂
コミュニティカフェ
インターネットで情報
SNSでコミュニケーション



現役世代・若い世代・子育て世代

3. まずはこれから取り組みましょう

すぐに取り組みたい3つのアクション

加入率低下や担い手不足の要因には、これまでの行ってきた町内会活動と会員を含めた住民、特に子育て世代や若い世代の地域コミュニティに対するニーズの乖離があります。

まずは、「ニーズに対応した活動で町内会の必要性を感じてもらえる」ようにすることが重要です。

あわせて、「オープンな運営で参加しやすい組織にする」ことや、「デジタル化を進めて運営の効率化と届く情報発信」を進めることが必要です。

①ニーズに対応した活動で「必要性」を感じてもらう

現在実施している町内会活動の対象が高齢者だけになっていないか点検したうえで、地域の子育て世代や若い世代からのニーズを聞き取り、活動の見直しを行いましょう。

ニーズを把握するために住民を対象にしたアンケート調査を行うことも、人材の発掘にもつながり効果的です。

②「オープンな運営」で参加しやすい組織

現在実施している町内会活動の対象が高齢者だけになっていないか点検したうえで、地域の子育て世代や若い世代からのニーズを聞き取り、活動の見直しを行いましょう。

ニーズを把握するために住民を対象にしたアンケート調査を行うことも、人材の発掘にもつながり効果的です。

③「デジタル化」で効率化と届く情報発信

スマートフォンが普及し、多くの人がスマートフォンで情報入手したり、コミュニケーションをとっています。

こうしたことから町内会でもデジタル化を進めることが必要です。

多くの人が活用しているLINEなどを活用して役員の負担を軽減したり、SNSで若い世代に情報が届くようにします。

もし役員のみなさんがデジタル化について詳しくない場合は、これを逆手にとって若い世代にデジタル化の協力を呼びかけることで、担い手不足の解消につなげることができます。

①ニーズに対応した活動で「必要性」を感じてもらう

●高齢者による高齢者中心の活動になっていないか点検しましょう

町内会では急激な高齢化により、役員の高齢化、そして高齢者向けの活動が中心になっていることがあります。活動カレンダーなどを作成し点検しましょう。

■ある町内会の年間行事

	主な活動	主な参加者
4月	町内会総会・懇親会	役員・班長
5月	清掃・健康体操	清掃は住民/健康体操は高齢者
6月	お祭り	住民全体
7月	健康体操	高齢者
8月	カラオケ大会	高齢者
9月	防災訓練・秋祭り	住民全体
10月	清掃・健康体操	清掃は住民/健康体操は高齢者
11月	カラオケ大会	高齢者
12月	クリスマス会・餅つき	子ども
1月	新年交流会	役員が中心
2月	健康体操	高齢者
3月	進学祝い金	子ども

●子育て世代や若い世代のニーズを聞き・実現に向けて一緒に考えましょう

地域に住んでいる子育て世代や若い世代に声かけを行い、ニーズを聞きましょう。

子育て世代は、気軽におしゃべりできる場所、子育てを相談できる場所や人を地域コミュニティに求めています。

若い世代は、「孤独」を感じている人も多く、気軽に立ち寄れるコミュニティの場を求めています。

ニーズを聞いたら、「それはできない・難しい」と言わずに、実現する方法を一緒に考えることが何より大切です。

●賃貸住宅やマンションの住民も地域コミュニティを必要としています

若い世代が多い賃貸住宅やマンションの住民も地域コミュニティを必要している人たちがいます。

災害の訓練や子ども向け活動、コミュニティの場をつくりながら、つながりをつくり、ニーズを把握しながら必要される活動を行うことで、町内会に入会してもらえることもあります。

●アンケートは住民のニーズを把握できるとともに人材発掘につながります

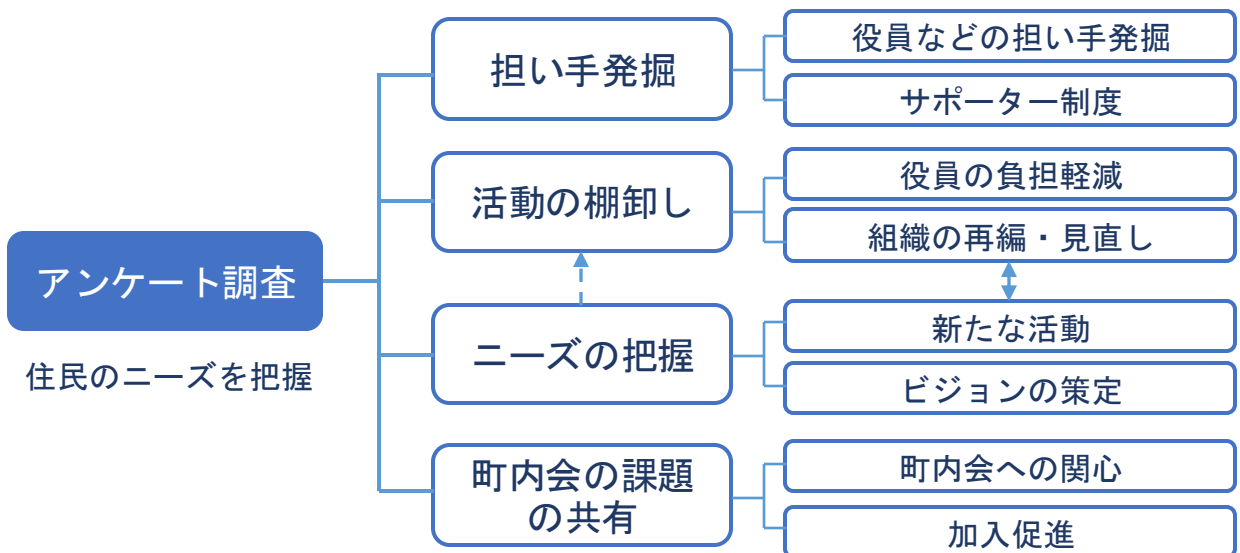
担い手不足の対応を始め、町内会活性化を考えるにあたっては、町内会の会員を対象にアンケートを実施することをお勧めします。

アンケートでは、実施の目的のところに町内会が抱える担い手不足などの課題を明記することで、会員と課題を共有し、そこから町内会のあり方について考えてもらえる利点があります。

また、アンケートで会員ニーズを把握することはもちろん、担い手の発掘を行うことができます。

実際に仙台市などの町内会では、アンケートを通じて新たな役員や町内会の活動を支えてくれる人材の発掘につながっているところもあります。

さらに、アンケートでニーズを把握して活動の見直し＝棚卸しを行い、役員の負担軽減につながったり、組織の再編や見直しを行うこともできます。



アンケート項目（案）

【想定されるアンケートの設問（基本設問）】

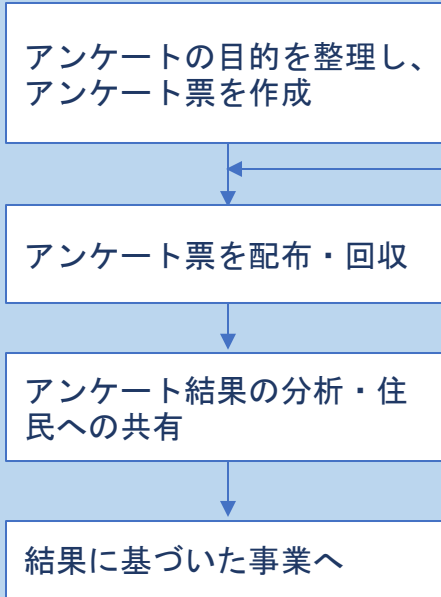
- 町内会の会員の属性など(年代、性別、世帯の構成など)
- 参加したことのある活動(活動の見直しのヒント)、今後必要だと思われる活動
- 町内会へのイメージ・印象、人のつながり
- 担い手不足に対する会員の意見・意向
- 町内会組織運営への参加の意識(役員やサポーターへの就任について)
- 希望する情報発信方法(回覧板、掲示板、メール、SNSなど)
- 自由意見 など



【各町内会の課題に合わせた設問】

会員を対象としたアンケート票の作成と調査の実施

アンケート調査の流れ（例）



- 個人情報保護について
アンケートの回答に個人情報にあたる内容が含まれている場合は、配布時に返信用封筒に入れ、封を閉じたものを回収すると良いでしょう。
- 回収方法について
回収方法にはいくつかの方法があります。町内会にとって負担が少なく、かつ回収率の高いものを組み合わせると効果的です。
 - ・班長が各戸を回る
 - ・班長宅で回収（回答者が届ける）
 - ・集会所などにポストを設置（その他、コンビニや商店などに協力してもらい、回収ポストを置いてもらうなど）

事例

町内会区域全戸へのアンケート票の配布 (札幌市西区山の手第40町内会)

- ・ 回覧板にアンケート票を添付し、町内会会員にアンケート調査を行った。
- ・ 同時に未加入世帯や若い世代も回答しやすいように、WEBでのアンケート回答フォームの二次元コードを付けた町内会活動の周知のためのチラシも配布し、多世代の意見を聞いた。
- ・ その結果、13名の役員候補・サポーター候補者を抽出した。



②「オープンな運営」で参加しやすい組織

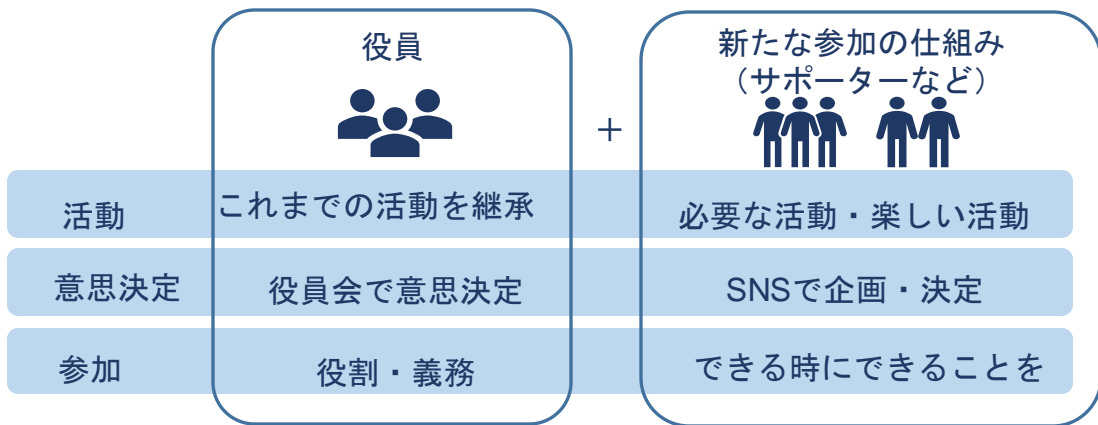
●誰もが参加できる

- ・総会や役員会などには誰もが自由に参加できるようにします。
- ・総会や役員会などは多くの方が参加できる時間帯に開催します。
- ・これからは総会や役員会などはオンラインで開催することも必要です。

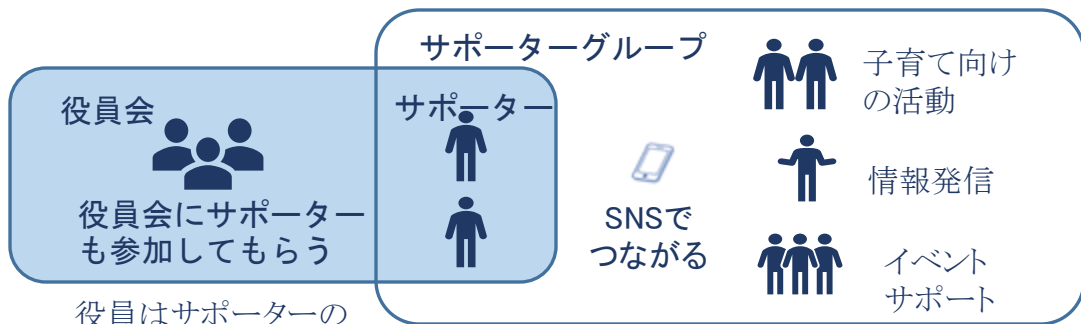
●多様な参加の形態(サポーターを増やす)

- ・現役世代も町内会に関われるように「やれるときに、やれることを」を基本に「サポーター」を増やしましょう。
- ・イベントは「実行委員会形式」で、協力参加を呼びかけましょう。

■やれるときにやれることで参画してもらう仕組み



■サポーターとつながりをつくる・企画から任せる



役員はサポーターの活動の支援者に

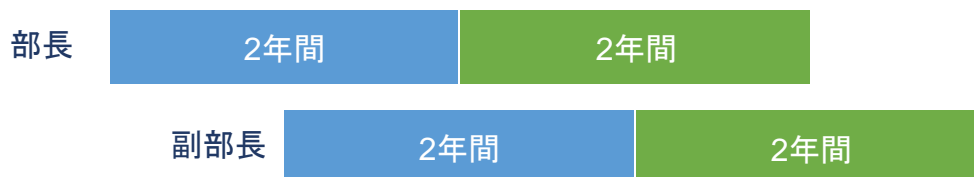
- ・ サポーター会議でサポーター同士のつながりをつくる
- ・ LINEグループなどで緩やかにつながる
- ・ サポーターの負担にならない活動
- ・ 子育て世代向けの活動などを企画から行う
- ・ 新たなイベントや活動を通じてメンバーを増やす

●各世代から役員を選出

- 世代ごとに役員を選出することで、各世代のニーズに対応した活動や運営を行うことができます。

●役員複数制

- 役員の負担を軽減するために、役員を複数制として代替わりがしやすいようにします。
- 前任者と新任者が重複する期間を設けることで、円滑に引継ぎができるようになり、新任者の精神的負担が軽くなり、継続性も確保できます。



役員は複数制にして重複期間を設けることで継続性を確保できます

●役員任期のルール化

- 役員任期を明確にして交代します。
- 役員任期を決め、「輪番制」など入れ替わる環境をつくります。

●役員定年制

- 役員定年制を導入します。
- 役員の高齢化を防ぐと同時に、引き継ぎがスムーズに行えます。

●役員輪番制

- 役員輪番制を検討する町内会も増えています。
- 輪番制の導入にあたっては、以下のことを検討した上で実施することが望ましいと考えられます。

- 活動の棚卸しを行い、役員の仕事の簡素化します。
- 簡素化した仕事のマニュアルを作成します。
- 様々な理由から役員ができない世帯をどうするか検討し、ルール化することが必要です。

例えば役員をやらない世帯は、会費を高くしている町内会もあります。また、輪番制の役員に適度な報酬を支払っている町内会もあります。

●運営マニュアルとチラシを作成して会員と共有しよう

- ・運営マニュアルを作成し、会員と共有することで開かれた運営にします。
- ・マニュアルは活用されることが重要で、手に取りやすいものを心がけましょう。
- ・文章がページいっぱいあるものは、読むのが大変で結局は活用されないマニュアルになります。
- ・内容は運営のポイントを簡潔にまとめ、文章化するときにはページに余白を持たせて、全体で多くても10ページ程度としましょう。

地域コミュニティ（町内会）運営マニュアル構成（案）

- 地域コミュニティが目指す姿 活動の方向性となるビジョンなどの記載があると理想的
- 年間スケジュール 総会、清掃活動、夏祭りなどのイベント、役員会など
- 行事に向けた作業内容(簡潔にわかりやすく)
例) 総会の場合 開催日時・場所、総会資料の構成、資料作成の時期
印刷と配布の方法、総会の案内と委任状の回収方法など
- 組織と各部の役割
- 情報共有の方法 閲覧板とFacebookページ、LINE公式アカウントなど
- 役員の仕事とスケジュール
- 班長の仕事とスケジュール



予算の使い方などはチラシでお知らせすることも大切です



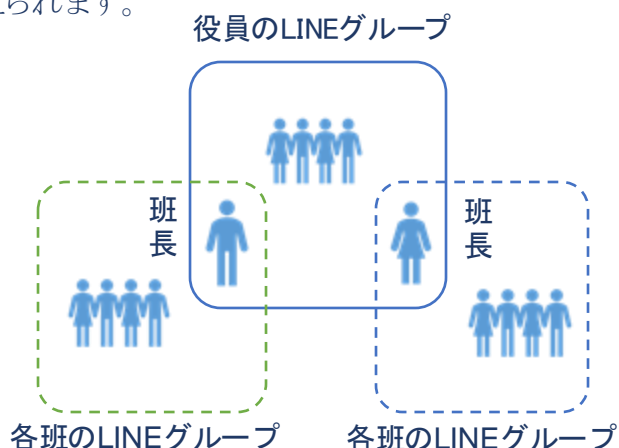
③「デジタル化」で効率化と届く情報発信

●LINEグループを用いた町内会の情報共有

LINEは多くの人を使用しているコミュニケーションツールの一つであり、町内会の情報共有で活用することは比較的ハードルが低いと考えられます。

●LINEグループを活用した情報共有

- 各班のLINEグループでは、会員同士のコミュニケーションを図ります。
- 役員LINEグループで、役員からの連絡事項などを班長に伝え、班長から会員へは各班のLINEグループで伝えます。
- 課題があった場合は、班長から役員LINEグループに連絡します。

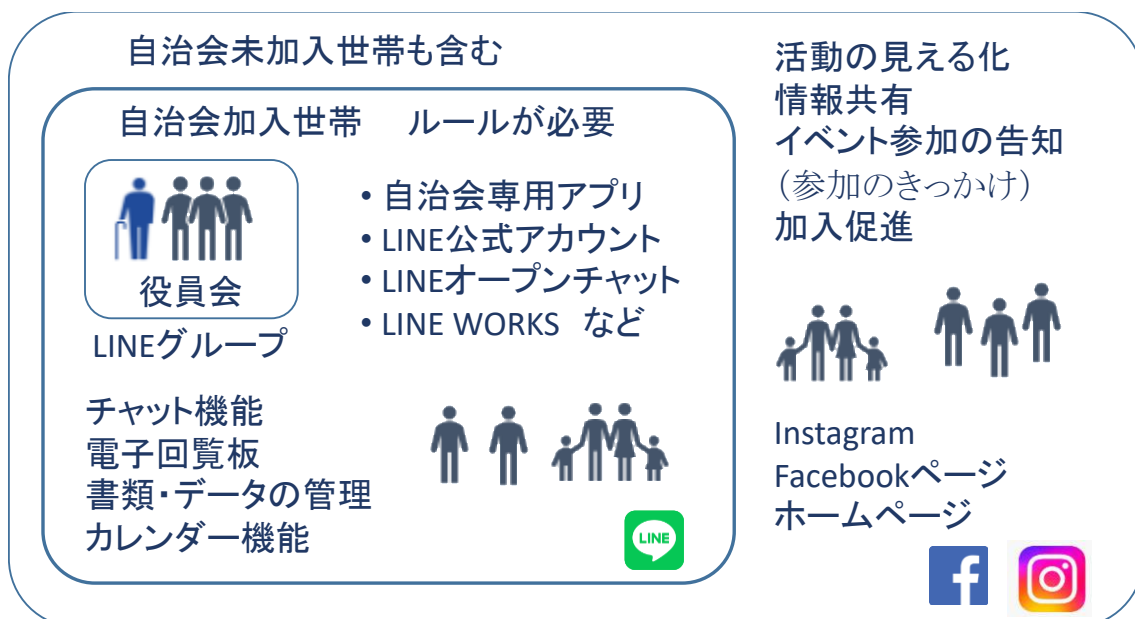


4つのメリット

1	発言がしやすい規模である班のLINEグループを作ることによって、コミュニケーションが取りやすい。
2	会議の開催や書類の回覧などの回数が減り、役員・班長の負担が軽減される。
3	すぐに情報共有が可能となるため、連絡事項が早く伝わり、会員からもすぐに返信が貰えるため、意思決定を早くできる。
4	返信がしやすく、発言も気軽にできるため、会員のニーズが把握しやすい。

●デジタルツールの使い分けによる町内会・自治会の情報共有

- 町内会・自治会加入世帯向けのツールと未加入世帯も含めたツールを使い分けることが大切です。



●Facebookページ・Instagramを用いた情報共有と広報

- 町内会・自治会の未加入者も含めて、町内会活動のPRと見える化などを目的に、FacebookページやInstagramで情報発信することことが有効です。
- Face Facebookページは主に40代・50代・60代の方が利用しており、Instagramは20代・30代・40代が利用しています。
- 若い世代に町内会活動を知ってもらうためには、Instagramでの情報発信が大切です。

Facebookページ・Instagramやホームページを活用した情報発信

- 回覧板の内容や、イベントのお知らせ・報告などを発信します。
- 誰でも閲覧することができるため、広報の代わりとしても活用できます。
- FacebookページやInstagramを始める時には、投稿担当者や運用のルールづくりが必要です。
- ホームページがある場合には、FacebookページやInstagramと連動させることが大切です。

3つのメリット

1	転入してきた方・転入を予定している方の情報の獲得源になる。
2	インターネットを主な情報源としている若い世代や現役世代に向けて情報を発信できる。
3	以前地域に住んでいた方(引っ越した方)も、継続的に地域情報を得ることができる。

事例

充実した内容で町内会活動を親しみやすく (札幌市中央区宮の森中央町内会)

- Facebookページとホームページで、地域の特徴や町内会の役割を丁寧に紹介。
- 豊富な写真で町内会活動の様子をわかりやすく紹介し町内会活動への参加を呼びかけ、町内会に関わりの少ない世代にもどのような参加の方法があるかを紹介している。
- 町内会の基本的情報や問い合わせフォームをホームページに掲載し、Facebookページは日々の活動報告や何気ない地域のニュースなどを紹介することで、より町内会を身近に感じてもらえるような工夫がされている。



●回覧板の電子化(既存の回覧板と合わせて運用)

スマートフォンの普及によってLINEなどのコミュニケーションツールが一般化しつつあります。

町内会の情報発信の基本であった回覧板を電子化することで、役員の負担軽減のほか、若い世代が町内会の情報を得やすくなります。

LINE公式アカウントを活用した情報発信

- LINE公式アカウントでは、アカウントの登録者に画像やテキストなどを一斉送信することができます。(メッセージ配信機能)
- 回覧板や掲示板のように用いることができ、町内会における情報共有の方法として効果的です。
- 紙の回覧板と併用してLINE公式アカウントを活用する町内会もあります。

▼メッセージ配信機能



LINEオープンチャットを活用した情報発信

- LINE公式アカウントの無料プランには制限があることから、LINEオープンチャットを活用する町内会・自治会もあります。
- LINEオープンチャットとは、LINEで利用できるグループチャット(複数の多人が集まってメッセージをやり取りするもの)です。
- LINEオープンチャットでは、ニックネームを設定できるため、匿名性が保たれます。LINEグループが匿名になったものとも考えることもできます。
- ただし、会話はすべての参加者が見ていることになるため、ルールなどが不可欠です。
- 5,000名の登録が無料でできます。

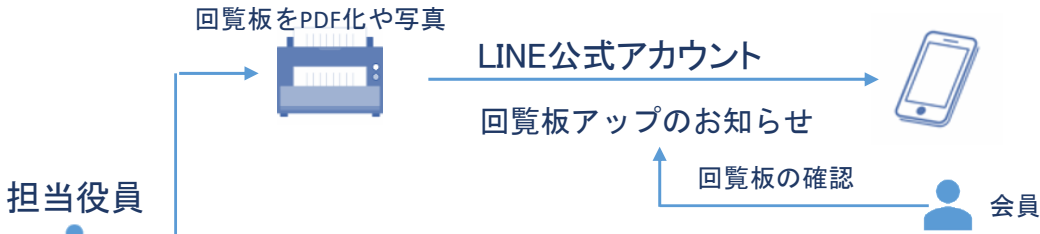
3つのメリット

1	LINEは日常で多くの人が使用しているため、使い慣れている人が多い。
2	メンバーが返信や反応を管理者に送ることが出来る。
3	1ヶ月分の友達の登録数やメッセージの投稿数を集計し分析できる。

※一方で、使用者はLINEの登録が必要になることや、LINE公式アカウントの無料プランは月に送ることができるメッセージ数に限りがあるなどの制限もあります。

●回覧板の電子化のイメージ

①回覧板の電子化

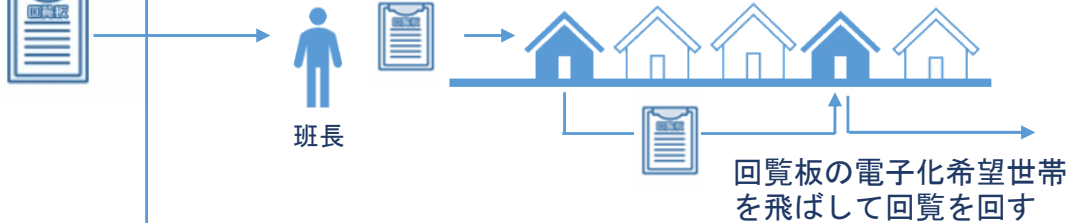


②従来の回覧板(戸建て)

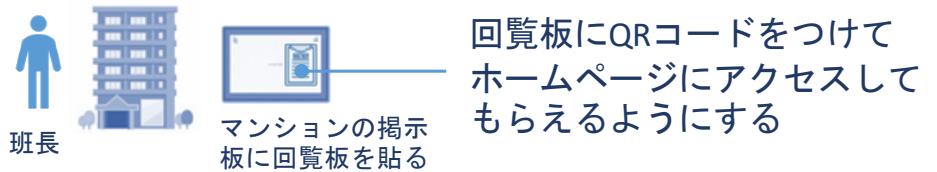
回覧板の電子化を導入後も従来の回覧板と併用する

回覧板の電子化希望世帯

回覧板の電子化希望世帯



③従来の回覧板(集合住宅)

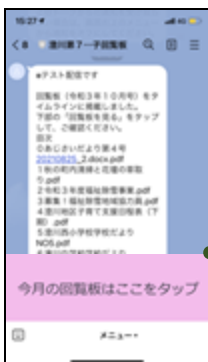


事例

紙の回覧板と併用したLINE公式アカウントの運用

(札幌市南区澄川第7町内会)

- 澄川第7町内会では紙の回覧板と併用して、LINE公式アカウントによる回覧内容の概要を配信している。
- LINE公式アカウントの配信から、ホームページに掲載している回覧書類のデータを簡単に見ることができ、町内の情報共有の効率化につながっている。



LINE公式アカウント



澄川地区連合会のホームページ

回覧物のデータが見られる！



●Instagramで情報発信

- ・若い世代が多く居住している町内会では、Instagramを用いた情報発信が効果が期待できます。
- ・ハロウィンや節分、新一年生のお祝いなど子ども向けのイベントの告知や開催結果の報告などを行なっている。
- ・また、町内会の会費の案内やボランティアの募集などの案内も行なっている。



●デジタル化は学生さん・若い世代にできないことを依頼して参加してもらう

- ・できないことを学生さんや若い世代にお願いしましょう！
- ・しっかりと役割分担を明確にしてお願いしてみることで、「それならお手伝いできるかも」という方が出てくるかもしれません。

